

出張！藻岩山図書館－図書館における観光客誘致事業－

板東 知里
札幌市中央図書館

1. はじめに

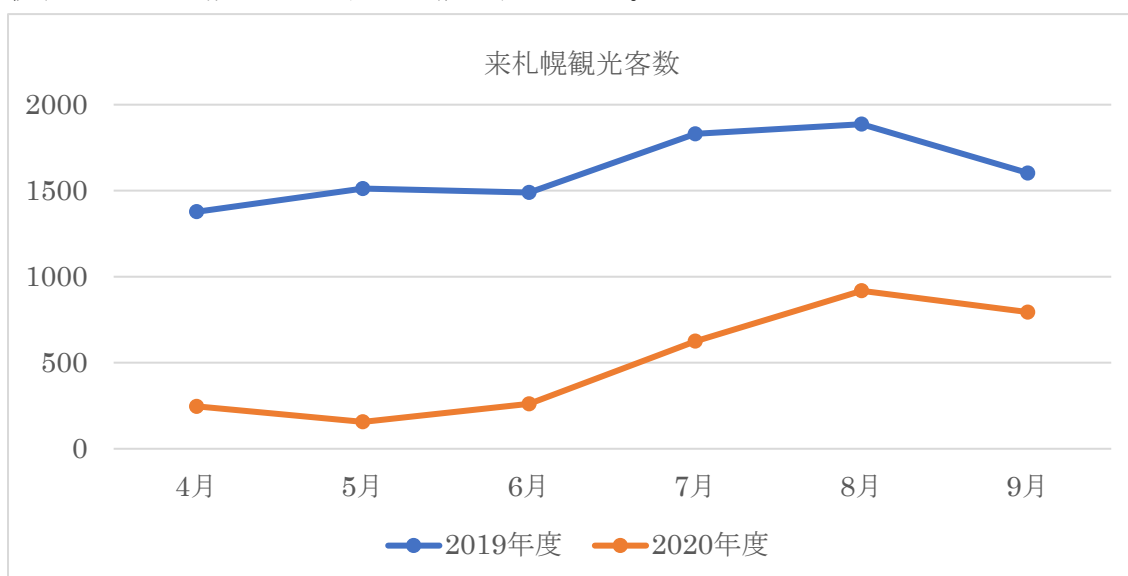
この度、第20回ビジネス・ライブラリアン講習会に参加し、札幌市の学生就職支援と観光業促進のテーマで発表を行った。その際、発表にて内容がぶれないようテーマを就職支援か観光業促進のどちらかに対象を絞るべき、具体的な効果が見えにくく出るのに時間がかかる等、多くの助言をいただいた。

本レポートでは、講習会で得た知見、札幌市中央図書館（以降中央図書館と表記）の立地、特徴を踏まえ、札幌市の藻岩山ロープウェイの利用促進を図る新たな事業案を提案していく。

2. 背景と現状

2020年から新型コロナウイルスが蔓延し、地元市民や観光客は不要不急の外出自粛せざるを得ない状況になり、北海道経済は大きく傾いた。

観光統計データ札幌市¹によると、北海道経済を回復させるため、国は観光業を支援する「Go To Travel キャンペーン」、「どうみん割」等を実施し、来札幌観光客数が4～6月までは前年同比80%以上減だったのが、7月は65.8%減、8月は51.4%減、9月は50.4%減となり、一時回復の兆しが見えるも、前年度の上半期合計約669万8千人と比較すると69.1%減の300万人と大幅に落ち込んだ。



札幌市の観光スポットである藻岩山にもその影響が出ている。令和3年（2021年）

¹ 観光統計データ 札幌市『2020年度上期（2020年4月～9月）の来札観光客数の状況について』 <https://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/statistics/documents/siryu.pdf> より

1月28日北海道新聞の朝刊に掲載された藻岩山ロープウェイを経営する札幌振興公社の記事による²と藻岩山を訪れる人の8割は道外からの観光客を占めており、「Go To Travel」の停止後、ロープウェイ利用客は前年比1、2割に減少した。

3. 事業の目的

この事業の目的は、藻岩山を訪れる観光客を増やすことである。そのため、豊富な情報提供と発信ができる連携先が必要不可欠となっている。その点、中央図書館は藻岩山から市内を走る市電で繋がっており、豊富な資料による情報提供、市役所・公共施設への繋がりや発信のできる存在として最も有益な存在と考える。また、中央図書館としても図書館の利用率を上げ、市外・道外の観光客に広報、地域の情勢を知るのに最適と考える。



藻岩山

こうした藻岩山と中央図書館の互いの利点を生かした事業案を次の章で提案していく。

※写真は『さっぽろ観光写真ライブラリー - ようこそさっぽろ』³にて無料公開されているものを使用。以下写真も同様。

4. 事業策

「出張藻岩山の図書館」を開催

(1) 対象者

藻岩山ロープウェイを訪れる市民、観光客

(2) 目標設定

年間入場者数を前年度の1.5倍（130万人）

※札幌市 統計書⁴にて公開されている藻岩山の最新の入場者数を参考

平成30年度 藻岩山入場者数 866,986人

(3) 内容

① 中央図書館の豊富な資料を展示

・展示内容

初心者向けの登山に関する本

² 北海道新聞 朝刊 令和2年（2021）1月28日『藻岩山全施設 1日から休業』より

³ 『さっぽろ観光写真ライブラリー - ようこそさっぽろ』

<https://www.sapporo.travel/sightseeing.photolibrary/>

⁴ 札幌市『札幌市統計書(令和元年版)-教育及び文化』

<https://www.city.sapporo.jp/toukei/tokeisyo/17educationr1.html>

場所

中腹駅

連携先

札幌もいわ山ロープウェイ

山麓事務所

効果

藻岩山の魅力の一つは初心者にも最適な登山ルートがあることだ。

行きは登山道を歩き、帰りはケーブルカーとロープウェイを利用して下ることができるため、初心者にも優しいコースとして登山客、地元民に親しまれている。初めて登山をしたいと思う人に役立つ登山の本を展示し、登山者を支援する。



ケーブルカー

・展示内容

ヒグマに関する本

場所

中腹駅

連携先

札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課

効果

ヒグマに遭遇しないよう予防策に関する本や札幌市のヒグマ出没情報を展示し、山を登る際の注意喚起をする。初心者にも優しいコースとはいえ、ヒグマが出没することがある。札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課と連携し、熊の生態に関する本や、ヒグマの出没情報案内を展示期間中に公開する。そうすることでヒグマの危険性を注意喚起することができ、登山者に安全で快適な時間を過ごしてもらえよう、注意喚起の展示を行う。

・展示内容

藻岩山に生息する動植物の本、

場所

中腹駅

連携先

札幌市経済観光局観光・MICE

推進部観光・MICE 推進課

効果

藻岩山は中心部から近い立地にあり



藻岩山の自然

つつ、豊かな自然に触れることができる。そのため、動植物を見に山へ登る登山者も多く、より自然を感じてもらうために、動植物の図鑑を展示し登山者により登山を楽しんでもらう。

・展示内容

札幌市や藻岩山についての歴史の本、藻岩山周辺地域のグルメ、観光ガイド本

場所

展望台

連携先

札幌市経済観光局観光・MICE 推進部観光・MICE 推進課

効果

登山客、またはミニケーブルカーで登ってきた観光客向けに札幌市や藻岩山について知ることができる初心者向けの歴史の本を展示し、藻岩山から見る美しい景色を見つつ、札幌市や藻岩山がどのような歴史を歩んできたのか知ってもらい、愛着を持ってもらう。

また、山から下りた際のご飯の食べる所や観光地を探す人向けにグルメ・観光ガイド本を展示し、周辺地域のお店、観光地を紹介し、藻岩山ロープウェイ利用客から周辺地域へと人の流れを作り、地域全体の連携を深めていく。

・展示内容

初心者向けのスキーの本、藻岩山周辺地域のグルメ本

場所

スキー場ラウンジ(冬季限定)

連携先

札幌藻岩山スキー場管理事務所

効果

初めてスキー場に訪れた観光客向けに、初心者向けのスキーに関する本を展示し、スキーの上達方法や滑る楽しみを知ってもらう。

また、ラウンジで待機している観光客向けに周辺地域のグルメ本を展示し、スキー後の食事場所を紹介し、地域との連携を深めていく。



藻岩山スキー場

こうした藻岩山に関連する資料を展示することにより、安全で快適な余暇のひと時を楽しむことができると考える。

また、藻岩山の豊かな環境は森林浴に適している。現代社会の騒々しい日常から離れた静かな森でゆっくり過ごすことで、「『自分自身の中にある本来の自然』を見つめ自分本来の生きるペースを取り戻す」⁵と東京農業大学の上原氏は語る。そうした環境の中で読書をすることで癒しの場として山の環境を活用し、集客力を上げられると考える。

② 登山教室の開設

内容

専門家に講師を依頼し、登山教室を行う

場所

藻岩山登山コース

連携先

- ・北海道道央地区勤労者山岳連盟
- ・札幌市総務局広報部広報課
- ・北海道新聞社
- ・札幌市テレビ局（HTB、HBC、STV、NHK、UHB）



登山道

効果

昨年8月にて北海道道央地区勤労者山岳連盟による登山教室が実施された。⁶当連盟はコロナ禍において初心者向けの登山教室を実施した実績があり、そのノウハウを生かして中央図書館と連携し、教室を実施する。また、講師に中央図書館所蔵でおすすめの登山の本も紹介してもらい、リストを作成し、藻岩山中腹駅にて配布し、図書館ホームページでもリストを公開する。レジャー専門情報サイトを運営するアソビューを創業した山野氏によると「旅先で何をしようかと悩んでいる旅行者は多い」⁷と語る。旅先でのレジャーや情報について中央図書館を通して各部署と繋がり、札幌市の広報用 Twitter や広報誌、北海道新聞社、地元テレビ局から情報を発信し、集客力を上げる。そうして札幌中心部からでも登山ができること、身近に参加しやすく楽しめると観光客が集まることが期待できる。

また、登山専門家からのおすすめの本を紹介してもらうことで、観光客に登山

⁵ 上原巖 他著『森林アメニティ学—森と人の健康科学—』朝倉書店、平成29年（2017）、6pより

⁶ 北海道新聞 朝刊 令和2年（2020）8月11日『コロナ禍の登山スタイル学ぶ』より

⁷ トーマツ ベンチャーサポート株式会社 他著『地方創生 実現ハンドブック』日経BPマーケティング、平成27年（2015）、80pより

についての良書を発掘・紹介することができる。そして、図書館側は専門家から登山の本について意見を貰うことができ、選書の参考にもなるため、図書館資料の質を上げることもできるため、こうした連携は重要と考える。

③ 開業支援

内容

藻岩山を訪れ、興味を持った人向けに中小企業庁配布のパンフレット⁸、中央図書館で配布している企業についてのパスファインダー、札幌市まちづくり政策局都市計画部が配布している「ロープウェイ入口電停周辺地区景観まちづくり指針」⁹を閲覧、配布できるブースを設置する。

札幌市経済観光局産業振興部商業・経営支援担当課に協力依頼し、商店街支援事業の相談会等も行う。

この事業により開業した店に協力依頼し、次年度以降の展示テーマとして取り上げる。

場所

中腹駅

連携先

- ・札幌市まちづくり政策局都市計画部
- ・札幌市経済観光局産業振興部商業・経営支援担当課
- ・この事業により開業した新規店舗

効果

藻岩山を訪れた観光客が持ち替えられるよう無料配布物を中心に置き、景観まちづくり指針も一緒に置くことで、利用者に開業する方法から景観に合った店ができるまでの流れをイメージしてもらえるようにする。また札幌市経済観光局産業振興部商業・経営支援担当課の方に来てもらい、商店街支援事業の相談会を行う。開業支援、案内、相談会を実施することで新たな店を作りたいという人が増え、新規店舗が増え、観光客が訪れ、藻岩山付近が賑わうと考える。そうした相乗効果から藻岩山の集客力を上げていくことができると考える。また、開業した店には次年度以降展示のテーマとして取り上げ展示内容を発展させ、店と藻岩山の関係づくりを構築させていきたい考える。

⁸ 『中小企業庁：出版物一覧』 <https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/index.html>

⁹ 札幌市まちづくり政策局都市計画部『ロープウェイ入口電停周辺地区景観まちづくり指針』 <https://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/keikanmatidukuri/documents/sisin-ropeway.pdf>

④ スタンプラリー

内容

藻岩山ロープウェイ、札幌市内を走る市電、中央図書館連携でデジタルスタンプラリー¹⁰を開催。

参加者にはスタンプラリーのサイトに登録してもらい、指定場所にある QR コードを読み取るとスタンプが押されるシステムを導入する。スタンプが全て埋まると中央図書館で記念のブックカバーとファイルを手に入れることができる。

場所

- ・藻岩山ロープウェイ入口
- ・中腹駅
- ・展望台
- ・藻岩山ロープウェイ市電乗り場
- ・中央図書館市電乗り場
- ・中央図書館入口

連携先

- ・札幌市交通局事業管理部営業課
- ・札幌市交通事業振興公社

効果

藻岩山、中央図書館へ行く交通手段として欠かせない市電を利用し、交通局と連携することで、市電利用客への広告宣伝、イベント参加者が市電に乗ることにより利用客の増加が見込まれる。

藻岩山、市電乗り場、中央図書館をスタンプ取得地とすることで、参加者には周遊する楽しみから各施設を知ってもらい、愛着を持ってもらい、人の流れをつくり、集客を上げていく。

(3) 事業実施に向けてのスケジュール

1年目を準備期間、2年目を事業実施、3年目を連携発展として設定

年数	内容
1年目	<ul style="list-style-type: none">・藻岩山管理事務局、札幌市関係部署との打ち合わせ・北海道道央地区勤労者山岳連盟に講師を依頼・事業 PR のためのポスターの作成

¹⁰ タケショウ株式会社『デジタルスタンプラリー | フリーモバイル』

<https://freemobile.jp/stamprally.html>

導入事例は『スタンプラリー事例 - digi-stamp.net』 <https://www.digi-stamp.net/example> を参照

	・札幌市交通事業振興公社に市電の社内広告を依頼
2年目	・2ヶ月に1回（1週間開催） ・札幌市環境局環境都市推進部環境共生担当課とヒグマ出没情報の共有 ・札幌市経済観光局観光・MICE推進部観光・MICE推進課と共に藻岩山付近のお店、観光地の支援と親交を深める
3年目	・藻岩山付近のお店、観光地をテーマに展示を発展

5. おわりに

今回、ビジネス・ライブラリアン講習会を受講し、知識を得るとともに新たなサービスによる時代の流れを感じた。例年の講習会では受講者は現地に訪れ、期間内で講習を受ける形式だが、今回は特殊な環境下のため、YouTube で講習動画を視聴し、Zoom やメールで受講者と連絡を取り合い、全てオンライン上でのやりとりで講習会を受講した。オンライン上での講習会受講のメリットは講習動画を何度も見返せること、移動時間の短縮が上げられる。自分自身、知識不足で一度では分からなかったことも、何度も見返せることで、知識の定着に繋がったと考える。また、北海道からの移動時間を短縮し、その分班員と企画について話し合う時間に充てることができた。今までのやり方に拘らず、よりよいサービスに対応して必要がある。そのためにも情報を集め、新たなことに挑戦し、自己研鑽を重ねていかなければいけないと強く感じた。

今回講師として話された小林講師の言葉で「何のために図書館が存在するのか」、「誰の為の図書館か」、「職員は何をしなければならないのか」という言葉が印象に残っている。今の状況下に嘆くのではなく、今何ができるのか、中央図書館の豊富な資料をどう活用できるのか、考え続けなければいけない。地方自治体や図書館間の交流を持ち、自身から積極的に行動し、誰もが訪れたい図書館づくりを目指していきたい。

参考引用文献

- ・観光統計データ 札幌市『2020年度上期（2020年4月～9月）の来札観光客数の状況について』
<https://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/statistics/documents/siryo.pdf>
- ・北海道新聞 朝刊 令和2年（2021）1月28日『藻岩山全施設 1日から休業』
- ・『さっぽろ観光写真ライブラリー・ようこそさっぽろ』
<https://www.sapporo.travel/sightseeing.photolibrary/>
- ・札幌市『札幌市統計書(令和元年版)-教育及び文化』
<https://www.city.sapporo.jp/toukei/tokeisyo/17educationr1.html>
- ・上原巖 他著『森林アメニティ学—森と人の健康科学—』朝倉書店、平成29年（2017）
- ・北海道新聞 朝刊 令和2年（2020）8月11日『コロナ禍の登山スタイル学ぶ』
- ・トーマツ ベンチャーサポート株式会社 他著『地方創生 実現ハンドブック』日経BPマーケティング、平成27年（2015）

- 『中小企業庁：出版物一覧』
<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/index.html>
- 札幌市まちづくり政策局都市計画部 『ロープウェイ入口電停周辺地区景観まちづくり指針』
<https://www.city.sapporo.jp/keikaku/keikan/keikanmatidukuri/documents/sisin-ropeway.pdf>
- 『スタンプラリー事例 - digi-stamp.net』
<https://www.digi-stamp.net/example>